

議 事 録

会 議 名	第 5 6 回 宇都宮市環境審議会 議事録
開催日時	令和 8 年 6 月 9 日（火） 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 午前 1 1 時 2 0 分
開催場所	宇都宮市役所 本庁舎 1 4 階 1 4 A 会議室
出席委員	大久保順也委員，小倉久美委員，岩井潤子委員，横尾昇剛委員（会長），北浦さおり委員，高梨弘幸委員，半田光隆委員，福田治久委員，増渕弘子委員（副会長），小林紀夫委員，小金澤頼子委員，大森幹夫委員，丹波由紀夫委員，齊藤好広委員，中島光委員
欠席委員	森嶋佳織委員，佐野和美委員，田代昌継委員，町田全功委員
事務局 出席者	環境部長，環境部次長，環境部副参事，環境創造課長，カーボンニュートラル推進室長，環境保全課長，廃棄物政策課長，廃棄物施設課長，環境創造課長補佐，環境保全課長補佐，ごみ減量課長補佐，環境創造課職員 6 名，カーボンニュートラル推進室職員 1 名
公開・非公開	公開
傍聴者・記者	傍聴者 0 名，記者 0 名
会議概要	1 開会 2 会長・副会長の選出 3 議事 ・宇都宮の環境（環境状況報告書 令和 8 年度版）」について 4 その他 ・事務連絡 5 閉会

発言要旨

会長

【宇都宮の環境（環境状況報告書 令和 8 年度版）」について】

本日の審議会では，事務局より第 3 次宇都宮市環境基本計画後期計画，宇都宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）並びに「宇都宮市役所カーボンニュートラル実行計画」地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の評価について説明があり，それぞれの進捗状況は「概ね計画通り」という結果であった。また，「未達」の施策に関しては今後の対策について明記があり，CO2 の削減についても順調ということであった。何か意見等はあるか。

委員

資料 8 ページの廃棄物分野の評価のうち，「市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数」について，令和 9 年度から開始予定であるプラスチックの分別講習会について教えてほしい。

事務局

令和 9 年度からプラスチック製品の資源化を開始するにあたり，分別講習会により周知する予定であり，講習会の開催希望を全自治会に確認する。また分別講習会の開催の際には他の出前講座などについても周知を行う。

委員	プラスチックの分別講習会は令和9年度からとのことであるが、令和8年度の目標値は修正するのか。
事務局	単年度の数値は一時的なものであり変更はしない。
委員	分別講習会や出前講座などの取組は行動変容に関しても大変重要であると考ええる。どのような周知を行っているか。
事務局	周知については、若者向けにSNSやデジタルサイネージなどを活用するほか、市HPや自治会回覧、折り込み広告など様々な媒体を活用している。
委員	ごみの分別講習会に参加したことがあるが、分かりやすく、非常に好評だった。ぜひ広く市民に周知してほしい。 アプリ「さんあーる」においても、プラスチックの分別について情報発信するのか。
事務局	「さんあーる」は本市のごみの分別方法など掲示するアプリであり、情報発信ではなく、プラスチックの分別について、分かりやすく掲示する予定である。
委員	国道沿いに物流ターミナルがあるが、屋根上が活用されていない。栃木県は日照条件が良好であるため、事業者向けの補助金を検討してはどうか。 また、ペロブスカイト太陽電池について、川口市やさいたま市では実装実験をやっている。本市ではそのような試みは検討しているのか。
事務局	事業者の太陽光発電設備については、脱炭素先行地域において民間施設の屋根に太陽光発電システムを載せている実績がある。 またペロブスカイト太陽電池については、国の「次世代型太陽電池官民協議会」に加入しているほか、事業者のヒアリングなどで情報収集等を行っており、今後導入の可能性を検討していく。
委員	上下水道局の所管かもしれないが、古い施設では水害時に生活排水や汚水があふれることがある。水害対策や雨水の利用、上下水道局との連携などについて教えてほしい。 また市内に出没している熊の件について、環境部の対応をお聞きしたい。
事務局	令和8年2月に一般廃棄物処理基本計画を策定した。この計画において、更なる下水道の整備を推進することを定めたほか、良好な水質を確保するものとしている。これらの方針は環境保全とも合致しているものである。 今回の熊に関して、生物多様性の考えもあると思うが、人命に関わる問題であり、まずは安全性が最優先であると考えている。
委員	市有施設の太陽光施設について、導入可能性調査の結果、導入可能な施設が減少したということであったが、ペロブスカイトのような新技術の導入により成立するものなのか。

事務局	導入可能性調査の結果、屋根の形状や広さ、耐荷重が条件に見合わない施設が確認された。そのため、重量が軽く、曲げられるペロブスカイト太陽電池が実用化された際に導入可能性があるものと考えている。
会長	導入ポテンシャルを調べる際、屋根の面積や形状、築年数によって導入困難な施設が判明し、当初の想定よりも少なくなることは珍しくない。技術の進化でできることも増え、太陽光パネルを屋根だけでなく壁にも設置できるようになっており可能性を検討してほしい。
副会長	みや・エコ・アクションポイントについて、ポイント協力店においてもセルフレジが増えた。有人のレジにはQRコードが設置してあるが、セルフレジには設置されていない店舗もある。事業開始から時間も経過したことから、設置場所等を今一度見直した方が良いのではないかな。
事務局	利用者の利便性も鑑み、ポイント協力店と連携を図っていく。 また、みや・エコ・アクションポイントのPRとなるが、6月中に「お友達紹介キャンペーン」を実施しているので、ぜひ活用してほしい。
委員	上下水道局の所管であるが、下水汚泥を堆肥化しており非常に使いやすい。全庁的に広く市民にPRしてほしい。
事務局	堆肥化について環境部も情報共有している。今回の上下水道局の堆肥は品質がよいと伺っている。なお、環境部としては生ごみの堆肥化の実証実験を行っている。
委員	ごみの分別講習会について、学校での教育が重要だと考えるが、連携などは行っているのか。
事務局	依頼があればもちろん伺うが、学校からの分別講習会の依頼は少なく、授業のスケジュールに組み込むことが困難であるという話も聞き及んでいる。現在の取組としては、「わたしたちのくらしとごみ」という補助教材を各学校に配布している。
委員	資料7ページにある「適応策」に関する講座の回数が未達となっている。近年では気候変動が市民の身近になっており感心も高い。これらの講座において行動変容につながる点などがあれば教えてほしい。
事務局	適応策に関する講座については、一般用および小学生用の利用があり、幅広い年代に対応できるようになっている。気候変動への適応策や環境配慮行動の推進に係る周知は大変重要なことから、今後とも注力していく。
委員	学校の授業にごみの分別講習会を組み込むことが難しいとの回答があったが、校長先生の講話の中で生物多様性の話をしている学校もある。授業という枠に拘らず、様々な機会をとらえて周知を検討したほうがよい。
会長	幼少期にそのような機会を設けることは重要である。

委員	新型コロナが流行していた時期に社会活動が低下したためCO₂排出量が減少した。そして現在はナフサ不足の問題により、ごみの排出量が削減になると考えられる。この難局がプラスチック問題を考える機会につながると思う。 宇都宮市には地域新電力（宇都宮ライトパワー）があるが、災害時のブラックアウト対策など検討されていれば教えていただきたい。
事務局	地域新電力は電力の地産地消や、系統に関わらず地域内に電力を供給すること求められており、果たす役割は大きいものである。このような視点をもって取組を進めているところであり、今度の対策も検討していく。
委員	リサイクル推進員の指導の下、毎年子どもたちが灰を使った石鹸づくりを行っており非常に好評であるが、リサイクル推進員に対するレクチャーなどを増やしてはどうか。 また、宇都宮市独自の取組である「もったいない運動」について、「もったいないフェア」は例年が盛況であるが、若者向けの理解促進が課題である。子どもたちにもったいない運動を伝えていくことは重要であり、行政としても今後も推進してほしい。
事務局	毎年4月、5月にリサイクル推進員を対象とした「新任者研修会」や「全体研修会」を行っており、新しい取組なども提供し情報共有を図っている。 もったいない運動については、令和9年度に20周年を迎えるため、今年度から周知も力も入れる予定である。また若年層への周知については実践できる例を示しつつ、周知を進めていきたい。
委員	若年層と一括りにしても、小中学生と大学生では生活がまるで異なる。年代に沿ったアプローチが必要であると考ええる。
委員	今年の2月、育成会の豆まきの際にエコキャップをまいた。経緯としては大豆の価格高騰による代替策であったが、子どもは喜んでおり、関心をもった様子であった。考え方次第で環境配慮行動は様々な取組に組み込めるので、広く柔軟に考えてほしい。
会長	環境配慮は我慢や消極的なイメージがあるため、楽しく周知できるとよい。未来の子供たちにいい環境、いいまちづくりが伝わるように推進してほしい。
事務局	【その他】 本日の議事録については、事務局で作成したものを皆様に確認依頼させていただく。